

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 江田島市立三高中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒737-2316

広島県江田島市沖美町三吉2699

E-mail mitaka-chu@edc.etajima.hiroshima.jp

Website http://www.edc.etajima.hiroshima.jp/~mitaka-chu/

幼児児童生徒数 男子 12名 女子 16名 合計 28名

幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

「人権教育」、「食育」に視点を置いて、「自他のよさを認める」「人とつながり」をキーワードに指導を行った。特に、「人権教育」、「食育」を中心に、生徒が自分たちの直面する課題に向きあい、解決策を考えたり、多様な価値観を認め尊重したりした。また、食育に関する関係機関と連携しながら健康について考え実践できる資質や態度、能力を養う教育を展開した。

今後は、各教科と領域をさらに関連させながら、互いに認め合い、共に高めあう話し合い活動ができる学習集団の育成に努めた。

① 「人権教育」の取組

本校の生徒は、保育所から少人数で人間関係が固定化しているため、人に伝えたり聞いたりするとき、相手の価値観を認めることができない傾向がある。また、関わりが少ないことから、ソーシャルスキルが十分身に付いていないという課題がある。そのため、隣接する三高小学校と連携し、「自他のよさや違いを認め合い、人とつながり、ともに高めあう児童生徒の育成」を研究主題に、学習活動づくり推進部と人間関係づくり推進部の2部会を設け、調査研究を行った。学習活動づくり推進部では、学習過程の振り返りができる掲示物の工夫や授業の流れの掲示

等による授業のユニバーサルデザイン化やペアトーク、グループトークを取り入れた授業づくりに取り組んだ。特に「人を大切に作る聴き方、話し方」を掲示し、他者を大切にすることを意識した交流活動を目指した。人間関係づくり推進部では、教室の掲示物を統一することにより、授業のユニバーサルデザイン化を図った。また、生徒の自己肯定感、帰属意識を高めるために、月々の行事や食育の取組の写真を掲示、小学生や地域や保護者の方からのメッセージの掲示等を行った。今年度は、SST（ソーシャルスキルトレーニング）を朝の会等で取り入れ、全員と挨拶をして握手をする等の取組を行った。また、部活動や生徒委員会において、役割を果たし、やりきる経験を通して、困難に立ち向かうことができる強い心を育て、「自分を大切にし、他人を大切に共に生きていくこと」を実践しようとする人権感覚の向上を図った。さらに交流活動や話し合い活動を基盤とした、道徳の時間のあり方を主研究領域として取り組んでおり、指導案においても、人権教育で育てたい資質・能力を焦点化し育てたい子どもの姿を明確にした授業を行った。

② 「食育」の取組

全学年自主参加型で、食育応援団を結成し、野菜の栽培や収穫、調理を行った。異学年や地域の方とのつながりは自他のよさを認める良い機会であり、自分たちの野菜を育てることで、責任感や自らの健康について考え実践できる生徒の育成につながった。

食育の取組は、総合的な学習の時間に位置付けている。柱として「郷土料理作り」「和菓子作り・茶道」、「学年の取組」である。

郷土料理作りでは、1年生を対象に、地域の食生活改善推進員を招き、三高の郷土料理である「もぶりご飯」「アジの塩焼き」「牡蠣のちぢみ」「みそ汁」「あえもの」を作った。郷土の料理に強い関心を抱き、アジをさばく体験や質問の時間などにおいて積極的な姿が見られた。地域の方と一緒に郷土料理を会話を楽しみながら調理し食べる経験は、郷土愛を育み、尊重する心を持つ大きなきっかけとなった。

長期休業中は、サマーコンサートを開催し、学校農園で収穫した野菜を食育応援団が調理し、参会者に振舞った。準備から片付けまで様々な活動を通して、主体的に多様な人々と協働する態度を養った。また、それぞれが役割を持ち、責任をもってやり遂げることで、自分のよさに気づくきっかけになった。

和菓子作り・茶道は全学年を対象に、地域の食生活改善推進員及び茶道師範を招いた。おはぎを作り、その和菓子を茶道の時間にお茶を点てながら頂いた。和菓子を自分たちで作ることで、調理する楽しみと食べ物への感謝の気持ちを育てること、お茶に親しむことであいさつがしっかりでき、感謝の心や物を大切にする心を育てることをねらいとして行った。学習を通して、地域の人たちとつながりを持ち、充実感を味わうことができた。

学年の取組では、1年生は農園で採れた野菜をたっぷり使ってカレーを作った。採れたての野菜は新鮮で、自分たちで責任を持って作りあげたカレーは絶品であった。7種類の野菜を使ったカレーを初めて食べるとの声もあがり、野菜を食べる習慣をつける良い機会になった。3年生は三高の特産である牡蠣を使ったレシピを考案し、食生活改善推進委員等と一緒に作って、2年生に振舞った。牡蠣を大胆に使ったり、牡蠣嫌いな人でも食べられるように調理法や味付けを工夫したりした。牡蠣をPRすることで、郷土を愛し、活性化に貢献できたと感じる。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特記事項なし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育課程（指導計画）に明記していないが、道徳の時間において、人権教育とリンクしたものになっている。また、食育においてはレシピを考える時間や選考する時間を学活等で設定したり、調理、試食、食に関する知識を学ぶ時間を総合的な学習の時間等に位置付けたりしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

少人数の学校である為、職員個々の負担は大きいですが、その分誰かに任せるとはせず、一人一人が意見を持ち合い前に進めようとしている。特に計画・準備・実践等において、職員間はもちろん、生徒と職員間の連携・協働を図っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールに関連する取組について学校関係者や学校評議委員から意見をいただいている。成果としては、生徒が意欲的に活動する姿であり、豊かな感性が育ったことである。課題としては、他の教育活動との連携が多く、十分にユネスコスクールのねらいが共有できていないことも見られる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校だよりや学級通信等で発信したが、保護者・地域から高く評価され、生徒の自信となった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

サマーコンサートでは、生徒が作ったものを地域の方々に振舞った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

特記事項なし

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

食育で地元の誇れる牡蠣を使っているため、地域の活性化や生徒たちの郷土愛につながっている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年4月25日に、本市に民泊修学旅行に来る、滋賀県彦根市立西中学校等2学年約120名との交流を予定している。その中でSSTを取り入れたものや地域の特産物を披露する場を設けようと考えている。